



最優秀賞

設計部門



(北側鳥瞰写真：神戸市提供)

作品概要

作品名—— 東遊園地再整備
 所在地—— 兵庫県神戸市加納町6丁目(東遊園地)
 発注—— 神戸市
 設計—— 公園マネジメント研究所・エス・イー・エヌ環境計画室・空間創研設計共同体
 株式会社ティーハウス建築設計事務所
 設計協力—— ことやし事務所
 施工—— 株式会社丸山造園、関西造園土木株式会社、株式会社山羽造園、株式会社村上工務店(Park-PFI施設)
 設計期間—— 2020年8月～2021年8月(実施設計)
 施工期間—— 2021年9月～2023年4月
 規模—— 約2.7ha(隣接歩道0.1haを含め設計対象は約2.8ha)
 主要施設—— 芝生ひろば、みちひろば、見晴らしひろば
 慰霊と復興のモニュメント、こども本の森神戸(図書館)トイレ、花時計

作品評

本作品は、明治8年に開園以来、神戸市民に親しまれている歴史的な東遊園地及び隣接するフラワーロードを対象とした再整備に関する業務であり、応募会社は設計と並行してPark-PFI等の事業者との調整も取り組んでいる。市中心部に立地する対象地は、空間・動線の分断を解消し、まちに開かれた空間を形成することなど、公園だけでなくまちの課題解決に対応する必要があり、更に、社会実験で得られた成果の取り込みやPark-PFI事業の導入なども求められた。歴史的な施設と既存の樹木などを継承しながら多様な機能を盛り込むことになり、再整備後の利活用や運営のあり方を見据えた様々な利用シーンに対応する配置計画とデザインが検討されている。その結果、各広場は個性的で自由度があるデザインでありながら、公園全体は調和した景観を形成し、まちの一体感も明確になっており、コンサルタントとしてのハード・ソフト両面の高い総合力が評価された。旧居留地との関わりや阪神・淡路大震災のモニュメント、市民の活動など、神戸市の歴史的レガシーを継承して今後引き継ぐ想いが込められた作品であり、2023年は太政官布達から150年の記念の年であり、まさに都市公園の歴史と今後を展望するにふさわしいとして最優秀賞となった。

設計部門



①フラワーロードと一体的なエントランス ②幼児も安全に遊ぶ、広場としても利用できる水盤 ③既存木の緑陰下に多様な休憩施設を設置 ④ガーデンステージと一体的に活用できる階段テラス ⑤多くの利用者が賑わう芝生ひろば ⑥ガーデンステージで開催される夜の演奏会 ⑦多様な場所で人々が憩う芝生ひろばと休憩施設 ⑧眺めを楽しみながら憩える見晴らしひろば ⑨毎週末開催されるファーマーズマーケット

東遊園地再整備

株式会社エス・イー・エヌ環境計画室
 津田主税・植村依子
 株式会社公園マネジメント研究所
 恵谷真・長谷川利恵子
 株式会社空間創研
 後藤逸成・泉崇
 ことやし事務所
 小林和子
 株式会社ティーハウス建築設計事務所
 槻橋修・荒木麻利佳・古田瑛子・牧拓志

東遊園地は、居留地外国人向けの公園として1875年(明治8年)に開園し、都心の貴重な緑のオープンスペースとして多くの市民に親しまれてきた。都心・三宮地区での様々な公共施設の再編・再整備や民間投資が進む中、本設計では、これまでの歴史や市民の愛着を活かしつつ、まちづくり団体や神戸市が実施してきた社会実験の成果を取り入れ、新たに導入されるPark-PFIの事業者をはじめ、様々な関連・周辺事業の関係者等と綿密な調整を図り、これまで以上に都心回遊の拠点、憩いと賑わいの場としての利活用が広がる公園とすることを目指した。

ア) 4つのひろばとPark-PFI施設等を連携させる空間構成

細かく空間が分断された園内を、芝生ひろば、みちひろば、見晴らしひろば、こどもと花のひろばの4つに再構成し、広場とPark-PFI施設をシームレスにつなぎ、季節や時間帯、利用シーンに応じた使い分けができるようにした。各広場には緑陰を活かしたベンチやテーブル等を多く配置し、利用者が思い通りに自分の居場所を作れることを可能とした。

イ) まちとつながるエントランス

周辺と連続性の乏しかったエントランスは、フラワーロード側は開口部を大きくとり、歩道と公園を一体化させた「みちひろば」とした。旧居留地側も、天井川であった地形の記憶・高低差を活かし、まちに開かれたエントランスとした。

ウ) 分断感や段差を解消する一体的な空間づくり

地形や既存施設の高低差等による空間の分断、バリアフリーが課題であったことから、既存地下構造物等に配慮しつつ細やかな地形づくりを行い、平滑に連続した空間を創出し一体的な利活用を可能とした。

エ) レガシーの継承

阪神・淡路大震災「慰霊と復興のモニュメント」やメタセコイア並木などを活かし、園内を南北に貫き山と海とを繋ぐ軸線をシンボリックな動線として再定義。また旧居留地に関する記念物等を際立たせるよう花壇や園路を配置し、旧居留地ガーデンとして整備した。